

## 「人口密度の増加は人獣共通感染症の出現の主たるトリガーである」

2021年4月9日 更新 Cellspect Co., Ltd

シドニー大学の研究によると、人類はさらなるパンデミックを引き起こす可能性のある環境条件を作り出し、悪化させている。シドニー獣医科学学校の新しい仮説は、生態系への圧力、気候変動および経済発展が、病原体（ウイルスや細菌などの病原体）の多様化に関連する重要な要因であることを示唆している。この研究は最近、国際学術誌「Transboundary and Emerging Diseases」に発表された。

人口が増えるにつれて、住宅需要も増える。この需要を満たすために、人間は野生の生息地に侵入してしまう。これにより、野生生物、家畜、人間との間で相互作用が増大し、昆虫が動物から人間へとジャンプする可能性が高まる。「今日まで、そのような疾患モデルは限られており、なぜ疾患が発生し続けるのかを理解することに、私たちは挫折し続けている。」と感染症専門家のワード教授は言う。「この情報は病気の緩和に役立ち、次の新型コロナウイルス感染症を防ぐことができる。」

この研究で、著者はこのモデルを開発するために、13,892の固有の病原体の組み合わせと49の社会経済的および環境変数を使用した。190カ国からの情報について、統計モデルを用いて分析し、新興感染症および人獣共通感染症（動物と人間の間で感染する病気）の原因を同定した。彼らは、土地面積が広く、人口密度が高く、森林面積が大きい高所得国では、人獣共通感染症の多様性が大きいことを発見した。この研究はまた、人口増加と密度の増加が人獣共通感染症の出現の主要な推進力であることを確認している。世界の人口は1900年の約16億人から今日の約78億人に増加し、生態系に負荷をかけている。

ブラジルのように経度-50から-100の国、アメリカのような先進国、インドのような人口の密集した国は、新興感染症の多様性がより高いと予測された。研究者たちはまた、気温や降雨量などの気象要因が人間の病気の多様性に影響を与える可能性があるとして指摘しました。より高温では、より多くの病原体が出現する傾向がある。彼らの分析は、気象変数（気温と降雨量）が病原体の多様性に影響を与える可能性があることを示している。これらの要因を総合すると、人間の影響による気候変動を含む人間開発は、環境を破壊するだけでなく、新型コロナウイルス感染症のような感染症の発生の原因となっていることが確認されている。近年、大きな影響を与えている人獣共通感染症には、SARS、鳥インフルエンザA（H5N1）、豚インフルエンザ（H1N1）、エボラ、ニパウイルス（Nipah）感染症などがあります。

「私たちの分析は、持続可能な開発が、生態系を維持し、気候変動を遅らせるために重要であるだけではないことを示唆しており、病気の制御、緩和、または予防のための情示唆を与えることができる」とワード教授は言った。「国レベルのデータを使用しているため、すべての国がこれらのモデルを使用して、将来のパンデミックの可能性を公衆衛生政策に反映することができる。」

引用文献：

1. Balbir B Singh et al. 2021 Mar 16 "Geodemography, environment and societal characteristics drive the global diversity of emerging, zoonotic and human pathogens" *Transbound Emerg Dis*.
2. Emily Henderson. 2021 Mar 30 "Research finds key factors that could lead to further pandemics" *News Medical Life Sciences*.
3. 2021 Mar 30 "Factors that may predict next pandemic" The University of Sydney news release.

当サイトの情報につきまして

細心の注意を払って現時点で最も正しいと考えられる情報をWebサイトに掲載しておりますが、その内容の正確性や安全性については保証するものではありません。また、当Webサイトをご利用になったことにより生じるいかなる損害について一切責任を負いません。当社は、予告なしに当Webサイトに掲載した情報を変更することがあります。また、Webサイトの運営を中断または中止することがあります。